

## 令和3年度 インクルーシブ保育研修（第1回）報告

6月25日（金）、「静岡県男女共同参画センターあざれあ」で、インクルーシブ保育研修（第1回）が行われました。県内各地から60名の方が参集し、研修会が実施されました。

講師に常葉大学保育学部の赤塚めぐみ先生をお迎えし、「よくある“気になる”行動のハテナ」をテーマにお話を伺いました。

初めに、気になる行動「あまり話さない」「言葉の使い方が不思議」「奇妙な動き」「こだわりが強い」について、それぞれの行動の具体的な表れとその要因、支援の在り方について、生活や保育の場面における具体例を挙げながら、大変分かりやすく語っていただきました。

次に国際障害分類（ICHD）に基づく障害の捉え方と国際生活機能分類（ICF）に基づく障害の捉え方の違いについて学びました。「できないことをできるようにする」から「好きなこと、できることを活用する」と考え、肯定的支援を心掛けることが大切であると話されました。

終わりに「言葉で伝えられる子」「『助けて、手伝って』が言える子」「仲間意識が持てる子」「言葉で考えられる子」を育てていくことの重要性を述べられました。



講師 赤塚めぐみ 氏

参加された先生方からは「これまで発達支援についての研修を数多く受けてきましたが、これほど共感でき、やってみたい！と思えることが詰まった講話は初めてでした」「2時間、どこをとっても”その言葉を聞き逃したくない”の気持ちが途切れませんでした」などの感想が聞かれました。実施後のアンケートでも「講義・演習は、今後の教育活動等に役立つ内容でしたか」の質問に対して96.6%の方がA評価（4段階）と大変好評でした。



### 参加者のアンケートから

- ・ 社会性の面で気になる子供に着目しがちでしたが、言葉の発達がいかに子供の成長に関連しているか学ぶことができ、とても有意義でした。今日学んだことは、職員間で共有していきたいと思えます。
- ・ 他の子供と異なる行動をする子供に対して「みんなと〇〇しようよ！」という声掛けが多かったと自分自身を振り返りました。その子の話を聞き、気持ちを尊重しながら次の行動に移すことができるよう心掛けていきます。
- ・ 保育の中で疑問に思うことや悩んでいることに対して、こうなんだ、こうすればいいんだと、たくさんさんのヒントが詰まったお話でした。自分の関わり方で、その子の未来が変わる責任のある仕事です。知ってとても大切であると改めて感じました。
- ・ 大切にしたいことは「言葉」、本当にそう思いました。視覚支援と言葉をうまく使い、子供一人一人が、とことん楽しめる環境や遊びを考えていきたいと思えます。大変勉強になりました。